

兒こ雷らい也や豪こう傑けつ譚たん
 上かみの卷まき
 第だい卅じゅう五ご篇ぱん



^13
 3878
 69

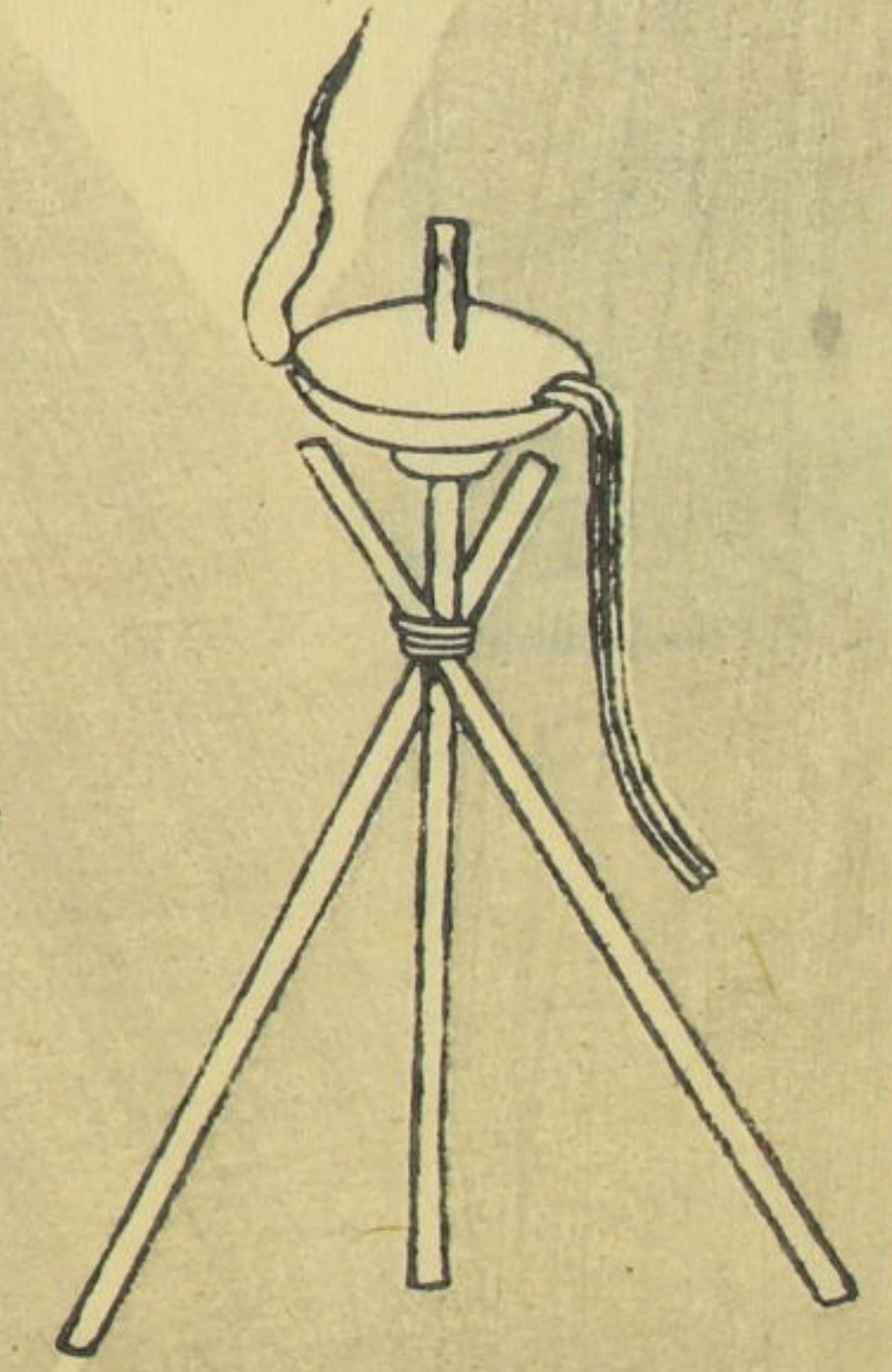


門へ13
 號3878
 卷69

兒雷也
 豪傑譚

上卷

榊の亭作
 一壽高画



糸市棒

一
 下九

一種の伽羅も衣裳小薰らしむと佛前小炷と陽と陰との
 相違あり幻術のわたりやまゝ邪道小是と用ると正路小依て
 行くと善と悪との差別り兒雷也か中道より非義と悔善小
 歸せの後其術必悪を擇為小行趣を先編の序文小述つれ
 今此巻のつくりを細手が蛤蜊の奇術ハ猶更元來地僊の感應
 慈善義軍と興る今川時秋と大洋の中小救妓曲小老一 鱈淵
 現藤太と郊原小蹶かと勧善懲悪ありぬけり 妖術と唱れ
 悪小限るやうなれども善と助る一端ともある一品の伽羅小陰陽ある小
 等のの軟と比れど煙小似て錯乱不文花香もわぬ頑物語ハ只春雨
 の徒然小兒童の欠伸を慰ん事と欲而已

安政巳未初春
 柳下亭種員識

見書七十五編



高砂勇助
照田

鯨洲現藤太

巳酉ノ七五



月影深雪之助照道

巳酉ノ七五



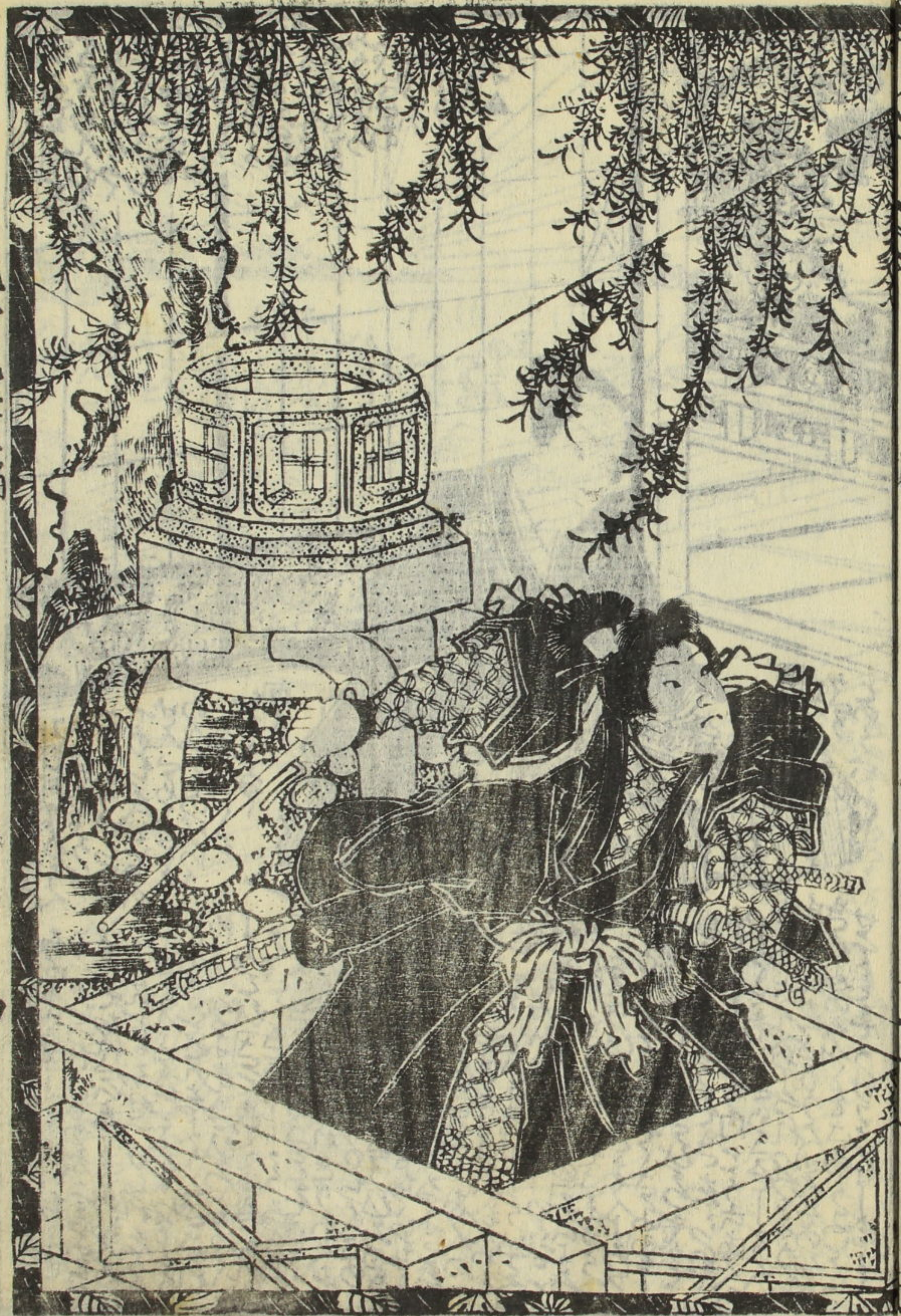
大蛇賊丸

白香也世五痛

世濟之助
入道清心

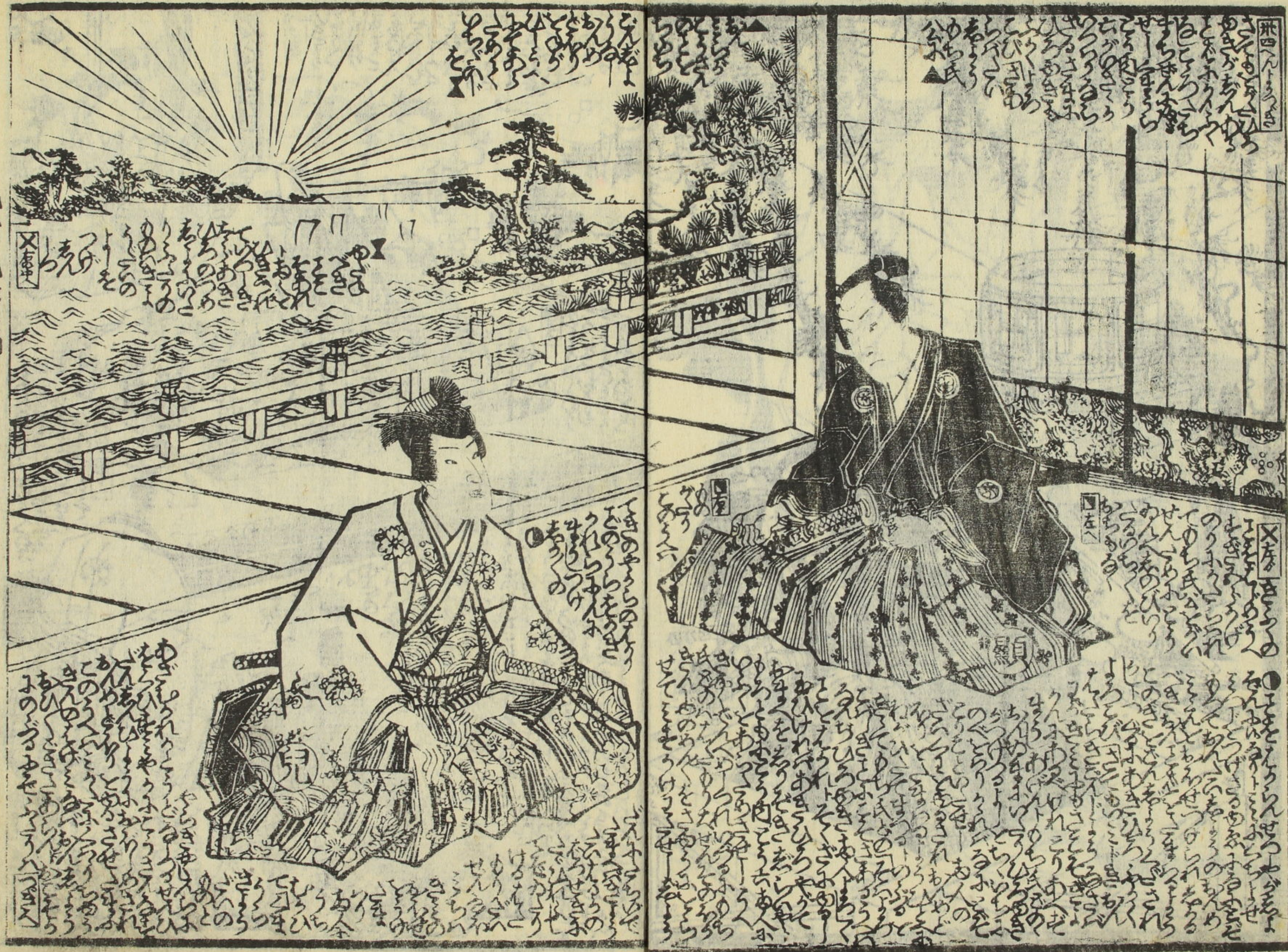
勇婦
細手

片雷也世五痛



カ松更名七
姫松須磨太郎

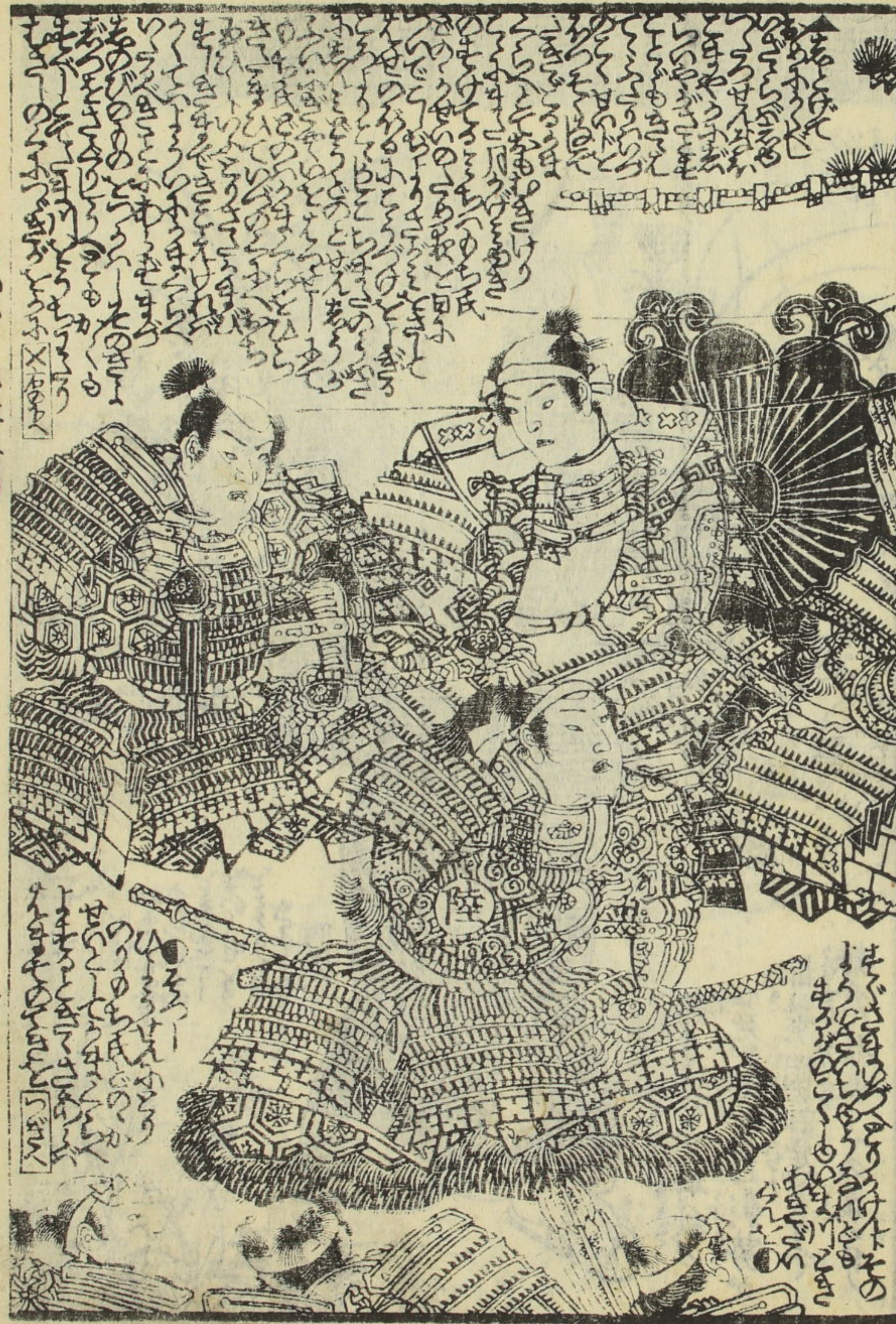
義助於
怨魂



Top left: 此の如く...
Middle left: 又...
Bottom left: 五

Top right: 飛...
Middle right: 左...
Bottom right: 五





上ノ巻 七ノ巻



上ノ巻 七ノ巻



日ノ百ノ七



日ノ百ノ七

